

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

農業教育の持つポテンシャルを最大限に活かし、生徒一人ひとりの夢をカタチにできる、“感動とトキメキの学園”をめざす。

- 1 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、これらを活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力などを身に付けさせ、主体的に学習に取り組む態度を育む。
- 2 生命と人権、自然と環境を大切にすることを育むとともに、自らを律することができる規律・規範を身に付けさせ、心身の健やかな成長を支援する。
- 3 豊かな勤労観や職業観を身に付けさせ、将来の夢や目標を形作り、進路を自ら選択・決定する力を育むとともに、農業の担い手や関連産業で活躍できる人材を育成する。
- 4 様々な機関等と連携した広がりのある教育の構築により、学校の有する施設・設備や生徒の活動成果等を府民に還元するなど、農業教育のセンター的機能を果たす。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と進路保障

- (1) 個に応じた『わかる!』『できる!』が実感できる授業を実践する。

☆国、数、英で導入する少人数展開授業や「英語4技能」のうち、特に「話す・書く」の機会を多く設定し、わかる授業を実践する。

※学校教育自己診断（生徒）で「少人数展開授業は授業内容の理解に効果的」（H30：79%、R01：79%、R02：83%）を前年度比で増加させる。令和5年度には、85%以上にする。

- (2) 自主的に学ぶ態度や習慣を身に付けさせ、生徒一人一人が「学ぼうとする意欲」を醸成し、「学ぶ力」の定着につなげる。

☆予習・復習など、授業以外の学習を充実させる。また、資格取得を推進する。

※授業アンケートで「必要な予習や復習ができています」（H30：2.93、R01：2.98、R02：2.94）の平均値3.0以上をめざし、令和5年度にも維持できている。

- (3) 生徒の基礎・基本の学力を定着させる。

☆「高校生のための学びの基礎診断」を導入し、その結果を効果的に活用することで基礎学力の定着・学習意欲の喚起を図る。

- (4) 日本の「生命総合産業を支える人材育成」のためのキャリアガイダンス機能の充実を図り、個々の進路実現を支援する。

○学校紹介就職100%、生命総合産業への就職者数、国公立大学を含めた生命総合関連学部、専門学校への進学者数を1割以上増加させる。

※農業関連企業への就職者数（H30:19名、R01:20名、R02:24名）、農業関連学部への進学者数（H30:24名、R01:20名、R02:23名）

2 農業教育を基盤としたチャレンジ精神豊かな「地域創生ジェネラリスト」の育成

- (1) SDGsを意識し、身の回りの課題解決のため農業クラブのプロジェクト活動等を通じ、社会に参画し貢献する意識を醸成する。

○地域課題解決をテーマとした農業クラブ活動を実施し、生徒の意欲を高める。

※学校農業クラブの各大会での上位入賞をめざす。

○アグリマイスター顕彰制度を活用するとともに、進学・就職等の進路実現に生かせる資格取得を推進する。

※アグリマイスター認定者の前年度比増をめざす。

☆GAP（農業生産工程管理）教育を推進し、生産物の高付加価値化により「農芸高校ブランド」を創出する。

※令和5年度にGAPの認証取得をめざす。

☆地域・企業・大学・農政等のリソースを活用し、農芸高校ブランドを拡充する。

※令和5年度に新たな「農芸高校ブランド」を創出するとともに、農業の6次産業化を推進する。

- (2) チャレンジ精神豊かな「地域創生ジェネラリスト」を育成する。

☆新学習指導要領等の実施に向け、スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業（H30～R02、以下SPH事業）で構築した評価方法を定着させる。

- (3) 多文化共生や国際理解に係る教育活動を取り入れ、グローバルな視点で農業を捉え、実践できる素養と態度を育む。

○国際協力機関等との連携や海外からの生徒との交流など国際理解教育を推進する。

○自然、歴史、文化の違いを学び、英語というコミュニケーションツールにより意思の疎通が図れるようにする。

※英検（準2級以上）の合格率を上げるとともに、取得を推進する。令和5年度には、準2級以上の取得者10人以上。

3 規律・規範の確立と豊かな心の育成

- (1) 自らを律することのできる規律や規範意識、また自らの行動をコントロールできる力を身に付けさせる。

○教職員が一丸となり欠席、遅刻、服装、頭髪、登下校時のマナーなどの指導を徹底する。

- (2) 職員の人権意識、カウンセリングスキルを向上させ、生徒を取り巻く状況等の把握と生徒に向き合う指導を徹底する。

☆いじめ、教育相談や支援教育に係る職員研修を行い、教育相談及び支援教育について組織体制の運用を進める。

○生徒実態調査結果を分析し、生徒指導全般に活用するとともに一人一人の生徒に寄り添い、安心・安全な居場所として、学校生活への定着を図る。

4 能動的な学校運営体制の確立と教職員の資質向上

- (1) 「授業アンケート（生徒による評価）」などを活用し、振り返ることで教員の授業研究・授業力向上を図る。

○「授業アンケート」結果や教員相互の授業見学により、各教科で組織的な授業研究・改善を図る。

- (2) 臨時休業への対応、自らの働き方の見直しによる長時間労働の防止に向けて、効率的、組織的に取り組む。

☆学習支援クラウドサービス、校内ネットワーク、校務処理システムを効率的かつ有効に活用する。

☆毎週水曜日を定時退庁日とし、長時間勤務を減らすべく各自が働き方を見直す。

- (3) 学校を取り巻く様々な課題を把握し、校内研修で教員の資質向上を図り、RPDCAを定着させ、課題に対応できる組織を構築する。

○本校が直面する課題の解決に向け、教職員向け研修、学外施設見学等を実施し、資質向上を図る。

5 地域の農業高校としての広がりのある教育の展開と情報発信

- (1) オール大阪の農業教育ネットワーク（行政（環境農林関連）、大学、企業、農家、農事法人、教委等）の活用を進める。

☆学校資産を活用し、地域と交流し、生産物販売、見学受入、イベント参加協力等の学校内外での学びにより、生徒の自己有用感を育成する。

※対外的な交流の機会を可能な限り模索する。

- (2) 府民、地域、中学校等へ農芸高校の魅力を積極的に発信する。

☆中学校訪問や体験入学会、学校説明会、学校HPの随時更新、報道提供等により農芸高校の魅力を発信する。

※将来、本校を志望する小学生、中学生等へ本校の魅力を提供する機会を設ける。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>※実施後に記載（令和3年12月）</p> <p>【生徒】 肯定率が全体的に高い。</p> <p>○高い項目 ・高校生活全般 94%、授業等 91%、人権学習 91% など</p> <p>○低い項目 ・生徒会活動 81%、その他（災害時の対応等）69% など。 昨年度と比較をした場合、生徒会活動はやや上昇した。コロナ禍のため、体験入部も十分でなく加入率は高くない。また、農業クラブ活動が放課後に行われていることもあり、学年進行とともに加入率が下降していく傾向にある。 避難訓練等は実施できたが、対応等を実感できることには至っていない。</p> <p>【保護者】</p> <p>○高い項目 ・全般 90%、保健指導 90%、人権学習 89%、情報提供 89% など</p> <p>○低い項目 ・施設設備 69% 全体的に80%以上の高い肯定率であり、より良い評価をいただいている。全体的に今後も高い数値が維持できるよう取り組んでいく。</p> <p>【教員】</p> <p>○高い項目 ・保健活動 93%、学習指導 90%、教育相談 89% など</p> <p>○低い項目 ・研修 57%、施設設備 63%、指導体制等 57% など 生徒・保護者と比較して肯定率が低い。生徒への指導に関する項目は比較的高いものが多いが、学校での体制に関する項目は低い傾向にある。日常の情報交換などが円滑になされるよう、働き方改革の観点からも改善が必要である。</p>	<p>※実施後に記載（令和3年7月、12月、令和4年2月 予定）</p> <p>【第1回 令和3年7月30日（金）】</p> <p>○学校経営計画 ・長引くコロナ過、教職員の努力により計画が概ね達成されていることに敬意を表す。 ・農業経営の学習からビジネスマネジメントの学習へと新たな可能性が展開されると良いのではないかと。 ・就職内定率100%、農業関連学部への進学等、進路選択にも手厚く指導されている。</p> <p>○教科書採択 ・図表・写真やタイムリーな事案、また実践的な体験活動事例等が含まれており、選定理由も明確で適切に採択されている。</p> <p>○アンケート結果 ・家庭での学習時間については、学習の根本を伝えていく必要があると思う。 ・よく分析をされているので、いかにフィードバックしていくかが大切である。</p> <p>○その他 ・コロナ禍で制限を受ける中の指導、大変なご尽力であったと推察する。 ・更なる連携による魅力発信を期待している。 ・農業関連企業など各分野で高い評価を得ている人材（卒業生）が多数いるので、有意義な交流の場が持てるのではないかと。</p> <p>【第2回 令和3年12月21日（火）】</p> <p>○学校経営計画 ・活動内容がよく分かる内容になっている。</p> <p>○授業アンケート（第1回） ・特に意見はありません。</p> <p>○今年度の活動 ・農芸祭等の学校行事は、感染防止対策を徹底し、規模等を縮小して実施。 ・9月中旬に1人1台端末が配備され、授業等での活用を進めている。</p> <p>○その他 ・生徒の前に立つ先生が、元気で働ける環境づくりを進めてほしい。</p> <p>【第3回 令和4年3月18日（金）】</p> <p>○令和3年度学校評価 及び 令和4年度学校経営計画 ・生徒アンケートの肯定率が前年に比べ上昇している。授業改善の努力がその数字に表れていると思う。就職内定率100%は、卒業生たちの活躍が各企業から評価されている。 ・授業以外での学ぶ力の育成は、何のために何を学ぶのか、教科にこだわることなく、生徒自身が興味を持ったことを調べたりしたことなどを評価することが必要。 ・コロナ禍による教育環境の変化を逆に生かしておられることが、各目標に対する成果を上げていると思う。先生方の創意工夫の成果である。</p> <p>○授業アンケート ・生徒は今までの授業のやり方でないものを求めていると感じる。 ・授業改善は、今回のアンケート結果からもその必要性が明確になった。 ・オンライン授業の増加が成果に繋がっているとのことだが、単に授業スタイルの成果ではなく、先生方がより生徒の理解に繋がるような授業展開や課題を工夫されたためと考える。オンライン授業ならではの配慮もかなり多くなされたと思う。 ・生徒取組と生徒意識がすべて上昇していることは、タブレットを活用して視覚に訴えながら生徒の理解を促進しようとする先生方の取組の成果。 ・教科により結果に大きな差があることなどから、教員のスキルレベルの向上に取り組んで欲しい。</p> <p>○学校教育自己診断 ・保護者の授業に関して（わかりやすい・内容の難易度）の「よくあてはまる」回答が少し低いと感じる。これは、生徒が自宅で保護者にそう言っているということ。 ・教員の肯定感が低いことが課題。コロナ・タブレットの導入・生徒指導などによって多忙感が大きいのではないかと。タブレットを活用した授業改善など、分掌の中の研修部を活性化させるのも一つではないかと。 ・カリキュラムに強い関心を示して入学する生徒や保護者にとって、大変満足する指導になっていると思う。これだけの評価を維持するためには、先生方の疲労感は相当であると推察する。</p> <p>○その他 ・状況や「価値感」が大きく変化する中で、先生方の日々のご尽力は一層過酷になっておられると推察する。くれぐれもご自愛を。 ・持続的に生徒・保護者評価を高水準の保つには、働き方改革が必要不可欠。</p>

府立農芸高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成と進路保障	<p>(1) 個に応じた『わかる!』『できる!』が実感できる授業を実践する。</p> <p>(2) 自主的に学ぶ態度や習慣を身に付けさせ、生徒一人ひとりの「学ぶ力」を育成する。</p> <p>(3) 生徒の基礎・基本の学力を定着させる。</p> <p>(4) 日本の「生命総合産業を支える人材育成」のためのキャリアガイダンス機能の充実を図り、個々の進路実現を支援する。</p>	<p>(1) ア 国、数、英で導入する少人数展開授業や大学進学希望者向けの科目について、常に検証し指導方法等の改善を図る。</p> <p>イ 「英語4技能」のうち特に「話す・書く」の機会を多く設定する。</p> <p>ウ 学年を中心に考査前の放課後補習を定着させる。</p> <p>(2) ア 各教科で宿題や課題を課すなど、授業以外の学習を習慣化させる。</p> <p>イ 漢検、GTECなどの普通教科に関連する資格・検定の受験者を増やす。</p> <p>(3) ア 「高校生のための学びの基礎診断」を導入し、基礎学力の定着・学習意欲の喚起を図る。</p> <p>(4) ア キャリア形成の視点から教育活動全体を捉え、キャリア教育計画を構築する。</p> <p>イ 専門学科、進路指導部、学年、教科等が連携し、生徒の進路を保障する。</p>	<p>(1) ア①受講する生徒の授業満足度80%以上を維持。[82.6%] ②自己診断(生徒)「授業(座学)は分かりやすく楽しい」の肯定率72%をめざす。[76.5%]</p> <p>イ 「話す・書く」を意見と理由を含め、2～3文で表現できるようにする。</p> <p>ウ 成績不振者等への考査前等での放課後補習を各学期で実施する。</p> <p>(2) ア①授業アンケート「生徒取組1(予習・復習ができています)」の平均値3.0以上をめざす。[2.94] ②長期休業中等における進学希望者向け講習会を実施する。</p> <p>イ 漢検、GTECの受験者数の10%増をめざす。 [R02:数検3名、R01:漢検65名、数検12名、GTEC22名]</p> <p>(3) ア 基礎学力の伸長につなげるため、教育産業の基礎学力調査を有効に活用する。</p> <p>(4) ア 昨年度までに構築された学校全体のキャリア教育計画を継続する。</p> <p>イ 卒業時の進路決定において前年度の決定率を維持。 R02 就職内定率100%、農業・食品関連就職者数18名、国公立大学の農学部等への前年度並みの進学者数をめざす。</p>	<p>(1) ア①「少人数授業は授業内容を理解するのに効果的」の肯定率:88.7%(○) ②「座学の授業は分かりやすく楽しい」の肯定率:92.7%(○)</p> <p>イ 学年等によるが、話す機会や書く機会が設けられており、表現力の向上につながっている。(○)</p> <p>ウ 成績不振者等には、考査前後での講習等の実施、課題を課すなど、継続的に指導を行っている。(○)</p> <p>(2) ア①「予習や復習ができています」と回答した生徒:平均値3.02(○) ②長期休業や放課後等での講習会を実施した。(○)</p> <p>イ 数検4名、英検15名が合格。(○) ※他、日本農業技術検定46名、FFJ検定22名、ビジネス文書検定30名</p> <p>(3) ア 講師を招いて、効果的な活用について、校内研修を実施した。(○)</p> <p>(4) ア 感染防止対策を徹底して、外部連携等も可能な限り計画通りに実施した。(○)</p> <p>イ・就職内定率100%(農業・食品関連企業への就職者数18名/全35名) ・農業関連学部等への進学者数(国公立6大学7名、私立16大学27名) ・その他15大学18名(○)</p>
2 農業教育を基盤とした「地域創生ジェネラリストの育成」	<p>(1) SDGsを意識し、身の回りの課題解決のため農業クラブのプロジェクト活動等を通じ、社会参画意識を醸成する</p> <p>(2) チャレンジ精神豊かな「地域創生ジェネラリスト」を育成する。</p> <p>(3) 多文化共生や国際理解に係る教育を取り入れ、グローバルな視点で農業を捉え、実践できる素養と態度を育む。</p>	<p>(1) ア 地域課題解決をテーマとした農業クラブ活動を実施し、各種コンテスト等に積極的に参加し、生徒の意欲を高める。 *コロナ禍に影響されない参加可能なものに重点をおく。</p> <p>イ すべての資格の取得状況を把握することにより、アグリマイスターの認定につなげる。</p> <p>ウ 地域・企業・大学・農政等のリソースを活用し、農芸高校ブランドを拡充する。 *外部人材やオンライン等の活用も図る。</p> <p>(2) ア 育成のための学習プログラムを実施し、評価を行う。</p> <p>イ 新学習指導要領に準拠した新教育課程を策定する</p> <p>(3) ア 国際協力機関等との連携や海外からの生徒との交流など国際理解教育を推進する。</p> <p>イ 自然、歴史、文化の違いを学び、英語というコミュニケーションツールで意思の疎通を図れるようにする。 *オンライン等の活用も図る。</p>	<p>(1) ア①近畿ブロック代表としてプロジェクト発表で全国大会出場をめざす。 [R02:中止、R01:プロジェクト発表のI類部門で全国大会出場]</p> <p>②自己診断(生徒)「農業クラブへの意欲」肯定率80%以上を維持。 [82.6%]</p> <p>イ アグリマイスター認定者10人以上をめざす。[R02:6名、R01:8名]</p> <p>ウ①GAP(農業生産工程管理)教育を推進する。</p> <p>②農芸高校ブランドをめざし生産物の高付加価値化を図る。</p> <p>(2) ア ポートフォリオやルーブリックを活用し、生徒の学びを可視化する。</p> <p>イ SPH事業の成果をもとにカリキュラム・マネジメントにより新教育課程を策定する。</p> <p>(3) ア 留学生との交流、外部イベント等への参加</p> <p>イ 英検の取得状況等</p>	<p>(1) ア①全国大会への出場は成らなかったものの近畿大会において、次の成果を残した。(○) ・プロジェクト発表I類(優秀賞)</p> <p>②「農業クラブ活動等は楽しくやりがいがある」の肯定率:90.0%(○)</p> <p>イ アグリマイスター認定者5名。認定のための大会等への出場機会や受賞実績が少なかったものの、工夫等により認定者を出した。(○)</p> <p>ウ①実習での安全管理を徹底するためチェックリストを活用して共有化を進めた。(○) ②当初の予定等を変更して実施。 ・食品加工科(製菓専攻)の高校生カフェはコロナ禍により中止(一) ※校内で内向けに実施。(○) ・資源動物科(鴨肉)の高校生レストランコロナ禍により中止(一) ・新ブランド(農芸野菜カレー、農芸カレーうどんの素)を開発。パッケージ等を刷新し、増産継続(○)</p> <p>(2) ア ポートフォリオの活用は一定進んでいるものの、ルーブリックの作成は遅れている。(△)</p> <p>イ 令和4年度入学生の教育課程について策定した。(○)</p> <p>(3) ア 留学生との交流はコロナ禍のため未実施(一) 百貨店と連携した即販会を実施。(○)</p> <p>イ 英検の取得状況(○) ・2級 2名 ・準2級 7名 ・3級 6名</p>

府立農芸高等学校

3 規律・規範の確立と豊かな心の育成	<p>(1) 自らを律することのできる規律や規範意識、また自らの行動をコントロールできる力を身に付けさせる。</p> <p>(2) 職員の人権意識、カウンセリングスキルを向上させ、生徒を取り巻く状況等の把握と生徒に向き合う指導を徹底する。</p>	<p>(1) ア 遅刻者に対する指導を徹底し、遅刻数を減少させる。 イ 制服の着用ルールを定着させる。</p> <p>(2) ア 教育相談や支援教育に係る校内研修を充実し、一層理解を深めて指導力を高める。 イ ①人権意識を向上させ、コロナ禍に起因するもの等、あらゆる差別を許さない教育の場とする。 ②いじめ等調査、生徒実態調査の実施結果を分析し、生徒指導全般に活用する。</p> <p>ウ 一人一人の生徒に寄り添い、安心・安全な居場所として、学校生活への定着を図る。</p>	<p>(1) ア 遅刻総数前年度比10%減をめざす。 [R02:1,206回、R01:1,405回] イ 冬服着用時・式典等でのネクタイ・リボンの着用など制服指導を徹底する。</p> <p>(2) ア 教育相談や支援教育に係る校内研修を2回実施[R02:1回] イ①年間計画に基づく人権教育の実施及び人権教育講演会の実施。 ②府教育庁によるアンケート等を実施・活用し、いじめ等の把握と未然防止に組織的に対応する。</p> <p>ウ・自己診断(生徒)「教育相談(カウンセリング)の体制が確立されている」の肯定率70%をめざす。 [76.1%] ・中退や不登校を未然防止し、前年度より10%減少させる。[0名]</p>	<p>(1) ア R03:1,453回(前年比+20%)(△) イ 機会のある毎に啓発を行っている。「生活規律を確立している」の肯定率:90.7%(○)</p> <p>(2) ア 教育相談に関する研修を1回実施。(△) イ①「侵害事象への対応」をテーマに2月に実施(○) ②アンケート(学校独自を含む)を2回実施し、実態把握と未然防止に組織的に対応できるようにしている。(○) ウ・自己診断(生徒)「教育相談(カウンセリング)の体制が確立されている」の肯定率:77.3%(○) ・中途退学は、0名(○)</p>
4 能動的な学校運営体制の確立と教職員の資質向上	<p>(1) 「授業アンケート」などを活用し、振り返ることで授業研究・授業力向上を図る。</p> <p>(2) 臨時休業への対応、自らの働き方の見直しによる長時間労働の防止に向けて、効率的、組織的に取り組む。</p> <p>(3) 学校を取り巻く様々な課題を把握し、校内研修で教員の資質向上を図り、RPDCAを定着させ、課題に対応できる組織を構築する。</p>	<p>(1) ア 各教科で組織的な授業研究を進める。その際、「授業アンケート」結果、基礎学力の調査結果(教育産業)を活用する。(ICTの活用、ALの導入なども含む) イ 授業研究を推進するに際し、公開授業・相互の授業見学等も行う。</p> <p>(2) ア 学習支援クラウドサービス、校内ネットワークや校務処理システムを効率的かつ有効に活用する。 イ 毎週水曜日を定時退庁日とし、長時間勤務を減らすべく各教員が意識して、働き方を見直す。 ウ 働き方改革を推進し、時間外労働を減らす取り組みを行う。</p> <p>(3) ア 本校が直面する課題の解決に向け、教職員向け研修、学外施設見学等を実施し、資質向上を図る。 イ 各分掌・委員会・学年・学科ごとの取組計画を踏まえ、課題の解決を進める。</p>	<p>(1) ア①教科及び個人で前期より後期の評価を上げる。[-0.02] ②全体の平均値3.20をめざす。[3.22] ③自己診断(生徒)「教え方に工夫がある」の肯定率80%以上維持。 [83.6%] イ 初任者は年1回研究授業を実施。</p> <p>(2) ア 資料データの共有化等による会議の効率化、省エネ化で時間短縮を図る。 イ 長時間勤務者へのヒアリングとコーチングを管理職及び産業医が行う。 ウ 農業科教員の働き方について時間と場所の枠を見直し、労働時間の昨年度比10%減をめざす。 [前年比-16%]</p> <p>(3) ア①教職員向け研修を年間3回程度実施。 ②学外施設等と交流し、課題解決につなげる。 イ 年度末に各組織の課題を明確化し、解決に向けた次年度の取組計画を作成し、学校運営協議会で示し、外部評価を行う。</p>	<p>(1) ア①後期の全体平均:3.30(前期3.31)数値としては、0.01下がっているものの、「予習復習をしている」(0.08増)、「授業改善に生かしている」(0.03増)の項目があった。(○) ②全体の平均値:3.31(○) ③「教え方に工夫がある」の肯定率:86.7%(○) イ 初任者等の研究授業 初任者:2名で計4回実施。 2年め:2名で計2回実施。 10年め:1名で計1回実施。(○)</p> <p>(2) ア 職員会議等で1人1台端末を活用し、ペーパーレス化を進めた。(○) イ 適宜、産業医等による面談を行った。(○) ウ 時間外勤務平均時間:40時間(月当たりの1人平均、前年度比-6.5%、-2.8時間)(△)</p> <p>(3) ア①教育相談(1回)、人権教育(1回)、情報関連の研修(複数回)を実施(○) ②大阪府立環境農林水産総合研究所や企業と連携し、研究活動の参考とした。(○) イ 各校務分掌等の課題を明確にし、次年度に向けた体制を再構築する。</p>
5 地域の農業高校としての広がり	<p>(1) オール大阪の農業教育ネットワーク(行政(環境農林関連)、大学、企業、農家、農事法人、教委等)の活用を進める。</p> <p>(2) 府民、地域、中学校等へ農芸高校の魅力を積極的に発信する。</p>	<p>(1) ア 学校資産を活用し、農業教育のセンター校として地域と交流し、食育推進、生産物販売、講習会開催、見学受入、緑化協力、イベント参加協力等を通して、生徒の自己有用感を育む。</p> <p>(2) ア 中学校訪問、学校説明会や体験入学会を充実するとともに、HP更新、報道提供等、積極的に広報活動を行う。</p>	<p>(1) ア①地元のこども園、小・中学校と交流し、複数回の見学受入れや講習会を実施する。 ②地域活性化のため地域のイベントに参加する。 ③正門周辺エリア(百年の丘、販売所)を有効活用し、月に一度、府民に開放し、交流する。 ④自己診断(生徒)「地域交流の機会」の肯定率80%以上維持。[80.4%]</p> <p>(2) ア①全教員で農芸高校の魅力と特性を伝えるべく中学校訪問を行う。 ②体験入学会、学校説明会への参加中</p>	<p>(1) ア①栽培関連の出前授業(美原西小11回)、ふれあい動物体験(小6回、中1回、支援4回、他2回)、酪農教育の出前授業(美原西小3回)(○) ②高校生カフェはコロナ禍により中止(-)※校内で内向けに実施。 ③定期的な開放はできず、学校説明会や体験入学会で活用した。(○) ④「地域との交流の機会がある」の肯定率:80.0%。コロナ禍であったが、交流先との調整や工夫等を凝らした。(○)</p> <p>(2) ア①コロナ禍により訪問は中止(-) ※代わりに資料を送付440校(○) ②体験入学会(1回)、学校説明会(6</p>

府立農芸高等学校

のある教育の展開と情報発信		<p>イ 11月開催の農芸祭について、広報の充実と多数の来場者への安全性の向上、利便性等の改善を図る。</p>	<p>学生数延べ600人をめざす。 [R02:742名、R01:550名] ③学校説明会等を今年度並みに実施。 ④生徒の輝いている一瞬を広報すべく学校Web等を活用し、イベントでの様子を紹介する。 ⑤マスコミ（新聞、テレビ等）からの取材依頼（複数回）をめざし、取組みを発信する。</p> <p>イ 保護者の学校行事に関する満足度、農芸祭の来場者の満足度の向上をめざす。 [保護者の満足度:96.4%]</p>	<p>回)の参加者(中学生延べ721名、各回各科60名に限定)(○) ③昨年比(学校説明会を1回増)(○) ④生徒の活躍や活動の様子を学校Webやマスコミ等を通して紹介した。(◎) ⑤各メディア(新聞2社、放送2社、出版1社、農水省等6件、教育産業1社)に発信した。(○)</p> <p>イ 保護者に限定して実施。保護者の学校行事に対する満足度の肯定率:95.9%(○) ※数値としては、前年度の数値を下回っているものの95%超であるため達成しているとした。</p>
---------------	--	---	--	---